

## 【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

**演 題** 上顎前歯部にGBRを応用したインプラントによる

咬合の再構成を行っている一症例

**演者名** 宮崎洋介

**日 付** 2007年11月27日

### Keywords

1. パーチカルストップの確立
2. GBR
3. 顎位の決定

### 抄 録

患者は51歳・女性で、他医院で部分床義歯を作ったが、機能的にも審美的にも満足できず、インプラント治療を希望され、2006年10月21日に来院した。前後的すれ違い咬合で、パーチカルストップが消失し、顎位の安定が得られていなかった。

審美的かつ機能的な咬合の再構成を行うために、暫間義歯を応用し、その状態をキープしながらインプラント治療を行うこととした。暫間義歯の作成は、若い頃の写真を持ってきていただき、顔貌の比率を参考にすることにした。咬合高径を決定した。下顎前歯部が残存しているため、咬合平面の基準を下顎前歯部とし、まず、理想的と思われる咬合平面に合わせて下顎の両側遊離端義歯を作製した。その後、下顎の咬合平面に合わせ、咬合高径・顎位を決定し、上顎の旧義歯を修理・調整した。患者の満足が得られた後、インプラントの治療へと進んだ。

上顎前歯部はすべて欠損し長期経過していたため、歯槽骨の幅は狭く、GBRを行う必要があることを説明、同意が得られたので、2007年2月9日 $\beta$ -TCPと吸収性メンブレン(バイオメンド)を利用した手術を施行した。半年経過後、二次手術を行った。同時にインプラントの埋入を行った。

今後、再度診断用ワックスアップを行い、プロビジョナルレストレーションに置き換え、

ファイナルレステーションに移行していくつもりである。諸先生方のご教授よろしく  
願います。